

令和7年度 SSTA福島支部 夏季研修会 実施報告

【実施日時・場所】

<1日目> 令和7年8月1日(金)10:00~16:30@杉妻会館 百合の間

<2日目> 令和7年8月2日(土)8:30~12:30@あづま荘

【参加人数】52名(こども園:8名 小学校:24名 中学校:7名 指導主事:5名 大学:4名 学生:3名 民間:1名)

【研修のねらい】

- 秋田喜代美先生の講演や参加者同士のグループ協議・演習を通して、幼・保・小・中における子どもの「科学する心」に火を灯し続けるための授業の在り方や教師の役割についての理解を深め、2学期以降の取り組みに生かすことができる。

【研修の様子】

<1日目> 子どもの「科学する心」に火を灯すための保育者・授業者の役割とは

【午前の部】

○ 開会行事

青田雅子支部長(南相馬市立太田小学校長)が、開会のあいさつを行いました。青田支部長から、「校種の垣根を越えて学び合っていくことで、新しい気付きを得られることに期待したい」と、お話しいただきました。2日間の熱い研修会、どんな学びを得ることができるか楽しみです！



○ 講演(学習院大学教授 秋田喜代美先生)

演題: 子どもの「科学する心」に火を灯し続ける～子どもが遊びや学びに没頭する瞬間と教師の役割～

昨年に引き続き、学習院大学の秋田喜代美先生にお越しいただき、講演をしていただきました。「子どもの『科学する心』に火を灯し続ける」をキーワードに、これからの保育・授業で大切にしたい視点をたくさんの子どもの姿を基に分かりやすくお話していただきました。秋田先生のお話の概要は、以下の通りです。



【探究の力ギは2つの“slow”】

1つ目は“slow looking”で、「対象をじっくり見て、比べたり、撮影したり、描いたりする中で、新たな気付きや疑問が生まれ、そこから探究が始まる」ことが大切であるとのことでした。2つ目は“slow pedagogy”で、教師(大人)は子どもが自然に出会う時、「一緒にいること、子どもと共に対象について深く潜ること、軌道から外れることを許容すること、長い目で子どもの探究を見守ること」が大切であるとのことでした。小学校の授業場面では、授業時間や授業時数というものに追われ、なかなか意識できていない部分で、参加者全員がはっとさせられたに違いありません。

【子どもにとっての道具の在り方を見直す】

子どもが用いる遊びの用具や学習用具に、皆さんはどのような物を準備していますか？教材屋から購入したり、材料を集めて自作したりしている先生がほとんどです。しかし、その用具は一つの目的でしか用いることができず、汎用的になっていないことがあります。道具は子どもの「～したい！」に応じて、子ども自らが工夫して使う物でなくてはならない。そのために、生活の中にある道具を、子どもが工夫しながら使えるように環境構成していくことが教育者の仕事であるとのことでした。

○ パネルディスカッション

秋田先生の講演を受け、園小それぞれを代表して、大堀先生と鳴原先生から実践紹介をしていただきました。どちらの実践も、子どもの思いに寄り添った環境構成や言葉かけがされており、非常に勉強になりました。

鳴原先生は授業で実際に使用した教材(撥水する布)を持参し、参加者に使ってもらった場面もありました。参加者は「お～!」「すご～い!」と言いながら、教材に触れていました。子どもも大人も、事象の前では同じリアクションをするのだなと思いました。お二人の実践に対して、秋田先生からコメントをいただきました。どちらの実践も、日常生活との関連があること、保育・授業の時間を越えて学び続けているところを価値付けてくださいました。最後に、質疑応答の時間を設けました。「探究とは何か」「教師の役割とは」「子どもに寄り添うとは」など、本質的な問いが浮かび上がり、たくさんの学びを得ることができました。

パネリスト:大堀未来(みなみ若葉こども園)

鳴原 卓(郡山市立明健小学校)

秋田喜代美(学習院大学)

進行:野口卓也(福島市立三河台小学校)



【午後の部】

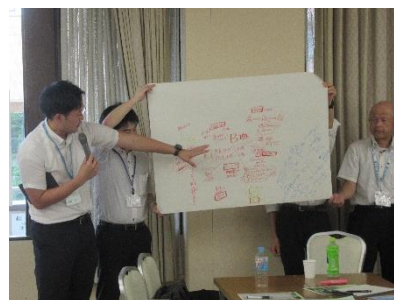
○ 基調提案(福島市立森合小学校教諭 渡邊 佑斗)

昼食を食べてエネルギー補給をしたところで、午後はじっくりグループ協議です。本支部の研修担当である渡邊佑斗先生より、グループ協議の方法や視点の説明がありました。子どもの「科学する心」に火を灯し続けることができる保育・授業の導入に着目し、午前中に学んだことを出し合いながら協議を深めていくことを確認しました。



○ グループ協議

参加者一人一人が、午前中の講演やパネルディスカッションで学んだことをアウトプットしながら語り始めました。参加者の中には、持参した教材に触れながら子どもがどのような時に「科学する心」に火が灯るのかを考える参加者の姿が見られました。また、実際の授業の写真や動画を持参し、同じグループの参加者に見せながら、子どもの「科学する心」に火が灯る瞬間における教師の関わりについて考えを深めるグループも見られました。グループ協議の最後には、各班からの進捗状況を共有しました。たくさんのキーワードが出てきましたが、「教師が子どもを見守る」「子どもの気付きを待つ」「環境構成を大切にする」など、各班共通する言葉も多く挙げられました。



○ 講評

遠藤謙一常任理事(田村市立美山小学校長)から、1日目の研修に対する講評をいただきました。「園小の先生方が同じ班で、同じまなざしで協議できることの価値を非常に感じる事ができた」「小学校の先生たちが、子どもに対する保育者の関わり方を参考にしながら、授業について考えているところがよかった」「子どもの『科学する心』に火を灯し続けるというテーマを常に意識して、2日目の成果発表に向けて協議を深めてほしい」といったお話をいただきました。2日目の研修で、どのように協議が深まり、どのような成果発表になるか楽しみです！



【夜の部】

夜は、飯坂温泉にあるあづま荘に宿泊しました。温泉に入り、おいしい夕食を食べ、心も体も満たされました！その後、各々が集まり、教育の話を肴にしながら熱い議論を交わしていました。教育について熱く語り合える仲間がいることのありがたさを実感したひと時でした。

<2日目>子どもの「科学する心」に火を灯し続ける保育・授業づくり

○ グループ協議(続き)

1日目からの参加者に、2日目からの参加者も加わり、白熱した協議を再開しました。子どもの「科学する心」に火を灯し続けるための保育・授業における導入の場面を考えました。各班、様々な視点で協議を深めていました。たくさんの書き込みのある模造紙には、2日間の熱い協議の成果を感じました。

協議の合間には、福島市名物の桃(あかつき)を食べました。福島市外から参加された先生方は、そのおいしさに驚いていました。「帰りに桃を買って帰ります！」という方もいらっしゃいました。



○ 成果発表会

研修のまとめとして、2日間の成果を班ごとに発表しました。率先して「わたしが発表します！」と名乗り出る若手教員が多く、SSTA 福島支部の層の厚さを実感しました。

各班、子どもの「科学する心」に火を灯し続けるための保育・授業について大切にしたいことに共通点がありながらも、各班の特色が出た発表となりました。どの班も大切にしたいと感じていたのは、「環境構成」と「子どもの動きを待つという姿勢」でした。「先生がやらせたいこと」ではなく、「子どもがやりたいこと」を思う存分



できるようにしたいという参加者の思いを感じました。一方で、「環境構成」や「待つこと」を大切にするならば、時間的な余裕が必要であることも浮き彫りになりました。学習内容が明確に示されている小学校の教科もあるので、どのようにカリキュラム・マネジメントをしていくとよいかも、話題に挙がりました。

○ 総括・閉会行事

青田雅子支部長(南相馬市立太田小学校長)より、総括をいただきました。青田支部長からは「福島市の暑さに負けないくらいの熱量で、2日間の研修を行えたこと」「保育者・授業者それぞれが互いの思いや願いを交流し合う中で、子どものためのよりよい実践を考える機会の大切さを感じたこと」などをお話していただきました。幼保小連携が注目されている昨今ですが、保育者と授業者が気兼ねなくいつでも語り合える場があることが、非常に大切であることを再確認することができました。



最後に、2日目参加者全員で記念撮影！いっしょに語り合える仲間がいることに感謝です。またやりましょう！



福島支部の新しいチャレンジ！

今回の夏季研修会では、新聞社に研修会の取材依頼をかけてみました。ねらいとしては、「SSTAの存在のアピール」と「福島支部の活動の周知」です。今回は、福島民友新聞社と福島民報新聞社の2社に取材していただきました。取材の反響は大きく、様々な方面から「新聞見たよ！」「素晴らしい活動をしていますね」といった声が事務局に寄せられました。今後も、福島支部の活動を積極的に発信していきます！

←2025. 8. 7 福島民報